



前立腺障害と薬の意外な関係

前立腺肥大症とは？

膀胱の下にある前立腺が肥大して、尿道を圧迫し、排尿障害を起こす病気です。症状は次に説明するように、人によって、実にさまざま。健康なときには、無意識に済ませている排尿がスムーズにいかなくなることで、日常生活に大きな支障をきたします。



夜間の頻尿



尿の勢い低下



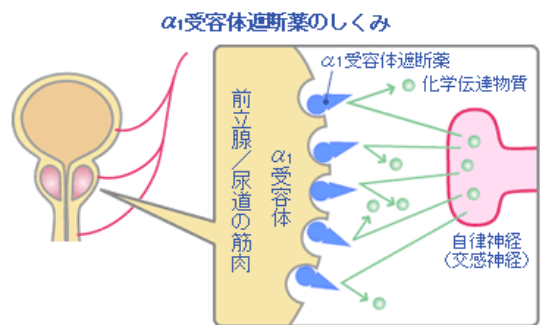
残尿感

前立腺肥大症治療薬と降圧薬

前立腺肥大症の薬物療法には、おもに $\alpha 1$ (アルファー・ワン)受容体遮断薬(塩酸タムスロシン、ハルナール、フリバス、ユリーフ、エブランチルなど)、抗男性ホルモン薬(プロスターールなど)、植物製剤(セルニルトンなど)などがあります。

この中でも $\alpha 1$ 受容体遮断薬がよく使われています。

自律神経からの情報を受け取る部位を受容体といい、 $\alpha 1$ はその一種(実際にはさらに細かく分類されます)にあたります。前立腺や尿道の筋肉などにあり、それらの $\alpha 1$ 受容体が刺激されることで尿道が緊張し、尿の出口が狭まります。逆に受容体をふさいでしまう(遮断する)と刺激が伝わらなくなって尿道が緩み、結果、尿が流れ出やすくなります。



降圧薬(血圧を下げる薬)は大きく6つに分類されますが、 $\alpha 1$ 受容体遮断薬はじつはそのうちの1つでもあります(カルデナリンなど)。 $\alpha 1$ 受容体は血管にもあるからです。降圧薬としては血管の $\alpha 1$ 受容体をふさぐ(遮断する)ことで血管を拡げ、血圧を下げるわけです。

それでは前立腺治療薬、降圧薬で使われる $\alpha 1$ 受容体遮断薬のちがいは何かというと、“前立腺、血管のどちらにより強い作用を示すか”ということです。

前立腺治療薬 **前立腺**の $\alpha 1$ >> 血管の $\alpha 1$ ⇒尿を出やすく
降圧薬 前立腺の $\alpha 1$ << **血管**の $\alpha 1$ ⇒血圧を下げる



実際にはハルナールを服用することで血圧が下がった患者さんが見えます。前立腺肥大で $\alpha 1$ 受容体遮断薬を服用する患者さんは、立ちくらみなどの低血圧症状に注意してください。

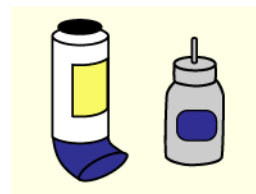
前立腺肥大と吸入薬

排尿障害の治療薬として、抗コリン薬という薬剤が使用されることがあります。膀胱の筋肉を緩めて膀胱の容量を大きくすることで、尿の回数を少なくできる薬です。

しかし、前立腺障害があり、尿の出口が塞がっている状態で抗コリン薬を使用すると、尿が膀胱にたまったまま出なくなる恐れがあります(尿閉といいます)。

“排尿障害目的での”抗コリン薬に関しては医師の注意も行き届くと考えられますが、注意が必要なのは“排尿障害目的以外で”抗コリン作用を持つ薬が使用される場合です。風邪薬やかゆみ止め(抗アレルギー剤)などが例として挙げられます。

特に盲点になっているのが吸入薬(アトロベント、スピリーバなど)です。前立腺肥大の疑いがある方で、これらの吸入薬を使用している、もしくはする場合は早めに医師に相談してください。



補足

残尿感がなく、量もしっかり出るのに回数が多い場合、過活動性膀胱(OABといいます)の可能性があります。もしこういった悩みをお持ちの方がみえましたら、医師、もしくは薬剤師までご相談ください。



しいのみ薬局	関市上白金 105-1	☎0575-27-0130	Fax 0575-27-0131
しいのみセンター薬局	岐阜市北山 1-14-27	☎058-241-1818	Fax058-241-1839
華陽しいのみ薬局	岐阜市祈年町 1-19-2	☎058-271-1640	Fax058-275-1949
南しいのみ薬局	岐阜市芥見南山 2-8-47	☎058-244-2112	Fax058-244-2110

お薬や「健康食品」のことなどに関して、Eメール(shiinomi@blue.ocn.ne.jp)によるご相談もお受けしています。お気軽にご相談下さい。

ファルマネットぎふ ホームページ(<http://www.pharma-net.co.jp>)